

第15回 新木地区「地域会議」議事録

- 1 開催日時 令和2年10月25日(日) 10:00～
- 2 開催場所 新木近隣センター 多目的ホール
- 3 議 事 司会進行 新木地域会議事務局長
 - (1) 開会挨拶 事務局長
 - (2) 市民活動支援課課長補佐
 - (3) 意見交換おしゃべり
「地域会議の開催テーマ」
安全・安心住みよいまちづくりに向けて

「新木地区等子ども支援」の現状把握について(その3)
イ「子どもの現状把握」について
子ども同士の交流の場が少ない環境にある
ロ「地域の中の子どもの環境」について
少子化による子ども会組織がなくなり、子どもと大人の交流の場がなくなっている
ハ「子どもと大人のつながり方」について
お互いに気軽に挨拶が出来る環境づくり
(押し付けない・理解を分け合う・聞く耳を持つを基本に発言をいただき【見える化】を図りたいと思います。
ニ まとめ
地域での子どもと大人の意識改革推進
「お互いに一声をかける」
 - (4) 新木地域会議感想アンケート
 - (5) 閉会
- 4 出席者 以下の通り

市民活動支援課、事務局、まちづくり協議会、新木団地自治会、新木県営住宅自治会、上あらしき台自治会、吾妻台自治会、松風苑自治会、南新木自治会、新木野自治会、グループホーム 新あらしきのおうち、デイサービス ルーチェ、ふらりえ新木野、新木野高齢者見守りネットワーク、虹の家、我孫子特別支援学校、湖北地区社会福祉協議会、湖北地区民生児童委員、湖北中学校、新木小学校、新木小学校PTA、福祉教育サポーター
- 5 次回予定日 令和3年3月21日(日) 10:00～12:00

議事録

<開会挨拶>

・（事務局長）

第15回新木地区地域会議を始めさせていただきたいと思います。本日は皆様にお集まりいただきましてありがとうございます。新木地域会議は約5年を迎え15回目を数えます。地域の安心安全住みよいまちづくり、皆様とのおしゃべり、情報交換、意思疎通を図る会です。今回は子ども支援（その3）を進めていきますので、積極的な発言を頂けますようよろしくお願いいたします。

・（市民活動支援課）

感染症の影響で市及びまちづくり協議会のイベントが軒並み中止になっていましたが、ここに来て皆様の感染予防の協力のもと、少しずつ集まれるようになり嬉しく思っております。

こちらの会議では、毎年違うテーマで様々な意見交換、団体の交流を重ねていらしたと伺っております。本日は子ども支援（その3）と聞いておりますので、皆様の意見を真剣に聞いていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

<イ：「子どもの現状把握」について>

・なかなか意見が出にくいので…。学校でお子さんを預かったりクラブ活動などがあつたりしますが、まずはその辺についての基礎知識として教えていただけませんか？

・こんにちは日頃よりお世話になっております。新木小学校では部活動も火曜～金曜で再開されました。現在は450名の児童のうち4年生以上の希望者約80%が参加しております。1年生から3年生までの児童は3時から4時の間に帰ることになっています。またあびっ子という制度があり、そちらは5時くらいまでに自宅に帰ります。学童では7時まで預かっております。その他ピアノなどの習い事や塾に通っているお子さんもおります。このようになかなか昔のように子供たちと肩を並べて帰ったり公園で遊んだりする子どもを見ることも少なくなっているかと思えます。

・（湖北中学校の）部活動は原則として全員参加となっております。402名在籍しておりますが、そのうち95%が活動しています。10月からは朝練も始まり水曜をノ一部活動としています。体育館の部活動については木曜をノ一部活動というところもあります。現在の下校時間は16：45ですが、11月からは16：30となり、1年で一番早い完全下校の季節になります。部活動の時間がほとんどとれなくなるため、12月からは希望する部活動単位で完全下校後の約40分間の冬季トレーニングがあるため、およそ17：30位には完全下校となります。夏になると完全下校が最長で18：30となります。このように地域で子供を見かける機会は少なくなっているかなと思えます。

・（我孫子特別支援学校について）自力での登校が難しいということもあり、ほぼスクールバスまたは親御さんの送迎で登校されています。学童は学校内にありません、小学部中学部のお子さんは近隣のデイサービスといった各施設を利用し、ワゴンで送迎してもらっている形になります。放課後に残ったり、部活動をしたりということは現状ないです。学習の中では、近隣の田圃を借りて田植えの体験をしたり近隣を散策したりしているので、見かけることもあると思えます。

<ロ：「地域の子どもの環境」について>

・我々が子どもたちに影響を与えるられる義務教育は9年間。最終的には地域に帰ってくる子も

多い。長い期間を見るとたった9年間で何ができるか。より良く育つには地域の力も必要。地域で課題を考え解決していく。すぐには無理でも5年後10年後に子どもたちが大きくなってからでもよい。学校だけではなく、地域・学校・家庭が同じ方向を向いて取り組んでいけたらいい。

- ・私は湖北地区で育ちました。接点が薄れているように感じているので、このような活動は大変大切。そのような姿を子供たちに見せることができれば、感じてもらえることもあると思う。また小学校PTAの皆さんもしっかりやっておられるので、子供たちと同じように、見てもらえればと思う。

- ・子ども会についてお聞きしたい。活発に活動されているところもあるようですが、新木団地ではかなり前に解散し、現在はない。あった方がいいねという言葉はある。15、6年前は子ども会と老人会の交流もあった。皆さんの自治会で子ども会があるか聞きたい。

- ・手を挙げてもらえますか…新木野自治会は継続されているのですね。大人と子供のつながりの中で、待っているだけではダメで自ら進んで作っていく必要があるかなと思います。新たに作っていくことが少なくなっているのでは、何かあれば意見いただければと思います。

- ・まずは僕らのほうから近づいていかなければならないと思う。支援学校の生徒さんに「こんにちは」というとニコニコ返事をくれて心が温くなる。小さい子に会ったら声をかけてあげるといことを心がけている。中には逃げていく子もいるが。また中学校の先生方は地域のことを知らない方もいらっしゃるかもしれない。まち協や私たちに声をかけてもらえれば、子どもたちを集めることは容易い。

- ・教育関係の現場にいた人間ですが、地域から先生の顔が見えない（という声がある）。校長や教頭はこういう場に来ていただけるので顔はわかるが。お子さんをお持ちの親御さんは多少分かると思うが、先生方も社協やまち協にも顔を出してもらえればと思う。

大人の問題も子供の問題と同じ。学校側の問題を地域に出せると良いかもしれない。学級懇談会など、先生たちが外に出て積極的に地域に出ていくシステムを作れないだろうか。地域と一体化した先生がいらっしゃることは地域にとってとても心強い。どうやって地域で子供たちを育てていくかというのは、我孫子クラブとのつながりを作っていくことが大きな課題だと思う。子どもを通じた大人のつながりを作るのも必要だと思う。

- ・地域について考えるということで、まち協に湖北中学校の生徒がインタビューに来られる。子どもと我々で一緒にたとえば美化運動、防災運動、といった機会にぜひ一緒にできたらと思う。

- ・湖北中学校では地域の課題を知るために生徒たちが動いていくというものがあります。これは総合的な活動として強化に組み込まれているものです。

新木小学校では3～6年生に双方向的な活動という教科があります。1～2年生では生活科という教科になります。1年生は学校探検、2年生はまち探検ということで地域の方とふれあい疑問があれば訪ねて答えてもらう。3年生では市について、4年生では地図を作る。5年生はトマトづくりの取材、つくる、習ってジャムを売り出すという活動をしてきた。

教育課程の中で双方向的な活動ということで本校では地域双生というテーマを掲げて各学年が工夫をして取り組んでいる。その活動が中学校へとつながり、子供たちが地域へと出向いていく前段階として小学校では全体を見ながら進めている。

学校教育だけではなかなか難しい部分もあり、地域の力を借りて子供たちを育てていく。またそれは新木小、湖北中巻き込んで子どもたちを地域で育てていこうという取り組みになっている。

- ・自治会の夏まつりに子供たちがたくさん集まった。また4月には小学校入学を祝おうと新入生

に来ていただいたが、ほぼ全ての新生が集まった。具体的に行動すれば必ず子供たちは集まってくれる。また、この地域は環境が良い、空気がおいしい、地域を誇れるということをお子たちに感じ取ってほしい。

・具体的な学校関係のお話が聞けてありがたい。日々散歩などで地域を見ていると、親御さんたちがどう地域で生活し、自治会や一般の方たちはどう考えて生活しているのか、何をしてくださりたいのか、何をすれば学校と一緒に地域の中に出てこられるか、ということを感じた。その中に高齢者はどう入ればよいか。一生懸命議論しても現場に戻るとこの地域会議を皆さんどのくらい知っているか、ということで寂しい思いがする。みんな一生懸命動いているがなぜ人が集まらないのか、そこは住民の方たちが地域に参加できる仕組み、意見をどれくらい吸い上げてどのようにしていくか、というのを考えてもいいのかなと思う。自治会、学校、地域（まちづくり）一生懸命やっているが、学生、親御、一般の方たちのいったん現場に戻って意見を持ち帰って話した方が、ここだけの意見で終わらせてしまうのはもったいない。住民の方たちをどう巻き込んでいくかを考えていくことが必要ではないかと思った。

<ハ：「子どもと大人のつながり方」について>

・まずは行動を起こすことが大切だと思う。「長く我孫子に住むなら地域に貢献しろ」といわれたことがある。それは何かと考えたら、こうして話すことも貢献なのかな、いろんな貢献がある。人を知るということは、挨拶、しつこく挨拶。その中で子供とのつながりができる。

・児童について聞いてみたが、子供たちがとてもよく挨拶してくれるがこれは教育の結果か？個人の意思で挨拶しているのか？また私の人相が悪いせいかもしれないけど、小さい子に声をかけたら母親が飛んできたことがあった。遠慮もだんだん出てくるが、どうするのが良いか。

・小学校ではコロナが始まってマスクしてから挨拶が少なくなった。先生に質問したところ安全管理委員が旗を振ってくれているが挨拶してくれなかった。

A：されたらできる

B：されてもできない

C：自分からできる

Cは450人中3人。自己主張が少なくなった。できればCを望む。子供にとっては地域の人はいい人。親にとってはもしかしたら不審者もいるかもしれないという心配もある。見慣れている人にはしっかり挨拶するよう指導している。どんどん声をかけてもらえればよいと思う。

・（見送りで）下校時に校門で立っていると子供たちは挨拶を交わすようになっている。継続は大事だと思う。

・お子さん方の挨拶はとても立派だと思う。よい教育をいただいて感謝している。挨拶をしないのは大人の方、知らんぷりしている人も多いと思う。

・30～40代の挨拶ができていないかなと思うこともある。挨拶が活発な地域だととても嬉しい。返ってこないともあるが継続することが大事。挨拶はとても大事。

・会社員のとき、部下には必ず挨拶することを徹底していた。心地よさを感じる挨拶をする。挨拶がすごい、そういう町であってほしい。自治会報とかで挨拶をすることを徹底することを地域テーマとしてもいいと思う。

<ニ：まとめ>

・意識して挨拶をして、それが市全体になっていくと良いと思う。

・挨拶運動はとても大切。返ってくるかは考えなくていい。子どもたちはよく挨拶してくれる、ありがたい。また前回の話し合いからどんなことがあったか、反応がなかったとかでもいいので、具体的な実践の報告があるとさらにいいと思う。

・うちは子どもたちが多い自治会。比較的若い自治会がだんだん大きくなった。13年前に防災倉庫ができてから防災訓練とラジオ体操が始まった。9年前から餅つき大会、7年前から夏まつりを行っている。なんのためか。静かで空気のきれいなこの地域。子供が大きくなってもずっとここで住んでもらいたい。ここに住んで良かった、ここにいるとこんなに楽しいことがあるんだよ、ということを目指して餅つき大会や夏祭りを行っていた。しかし今年の2月から活動できていない。他の自治会と協力して頭をひねって悩んで議論してきたが、クリスマスなども頓挫していった。来年こそは大々的にイベントを行いたい。我々が唯一子供たちと会えるのは夏祭りやイベント。横山先生が来てくれると子供たちから歓声が上がる。こういったイベントがあるからこそ地域として何をやっているかが分かる。我々自治会としてやれるのはそのくらい、でも継続してやっていきたい。

まとめとして、子どもと大人の関わり「お互いに挨拶をする」

<閉会>

・（事務局長）

本日はお集りいただきたくさんの意見ありがとうございました。次回からは再度防災をテーマとして開きたいと思いますので、今後とも新木地区地域会議をよろしくお願いします。